

# 岡崎「ている」の縮約形「てる」 の増加

Increase of “teru,” the contracted form of  
“teiru,” in Okazaki

(Ver. 1.1)

国立国語研究所  
National Institute for Japanese Language and Linguistics

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究  
Comprehensive Research  
Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

井上史雄 ・ 柳村裕  
INOUE Fumio, YANAGIMURA Yuu

平成 26 年 3 月 4 日  
4 March 2014

# 目 次

## 解説

- 概要
- 作業手順
- グラフの見方
- ラベル付き散布図の見方
- 「てる」使用数変化の全体像
- 場面別の生年グラフ
- 性別ごとグラフ
- 学歴ごとグラフ
- 丁寧さごとグラフ
- 今後の分析手順
- 参考文献

## グラフ

- 図 1            11 場面全体 場面ごと調査次
- 図 2            11 場面全体 調査次ごと年代
- 図 3～4        場面別調査次ごと年代
- 図 5～6        性別ごとグラフ
- 図 7～9        学歴ごとグラフ
- 図 10           丁寧さごとグラフ

# 解 説

## 概要

この報告は、国立国語研究所がこれまで半世紀以上にわたって継続した岡崎敬語調査に関する資料集である。「日本語の大規模経年調査に関する総合的研究」として、岡崎敬語調査全体を分析することになった。場面別の回答文は、本来の敬語の研究に使う以外に、長い談話の断片として、多面的に分析できる。

過去2回の調査結果については、国立国語研究所(1958)、国立国語研究所(1983)などで、おもに調査の当初目的の「丁寧さ」について分析が行われた(ここでいう「丁寧さ」は第2次調査報告書における野元による「丁寧さの段階付け」の略称である)。ここでは、資料

集の4として、「ている」の縮約形「てる」の使用に関する基礎的資料をグラフの形で提示する。動詞のテ形+補助動詞「いる」で構成される「ている」の縮約形「てる」について、その全活用形（てない、てます、てる等）の使用数を数えて分析した。その結果、「てる」使用数の時間的増加や、話者属性などの種々の変数による「てる」使用の差異などが明らかになった。

## 作業手順

実際の作業は、以下の分担で行われた。用例数の集計は、柳村裕による。個人ごとの平均点を集計した。EXCELによるグラフ作成も、柳村裕による。これらの基礎的集計によって、柳村が解説を執筆し、井上および関係者で検討した。

## グラフの見方

本報告では、縮約形「てる」に着目して、岡崎敬語データの概要を示すことに重点を置いた。グラフ全体の構成は以下のようである。

全体像提示（図1、2）

場面別（図3～4）

性別（男女別）（図5～7）

学歴別（図8～9）

丁寧さ別（図10）

図の種類には、折れ線グラフ、散布図、棒グラフの3種類がある。すべてのグラフにおいて縦軸は「てる」の平均使用数を示す。横軸は図の種類によって異なり、折れ線グラフでは年代、散布図では縦軸と同じく平均使用数、棒グラフでは「丁寧さ」の段階を示す。

すべての図において縦軸に示されている「てる」平均使用数は、

「てる」の総出現回数÷反応文数

として算出した。これは、（調査対象全員における）1反応文当たりの「てる」使用数を表す；あるいは、全反応文中に占める「てる」を含む反応文の割合にもほぼ相当する。例えば、ある条件での「てる」平均使用数が0.01であれば、これは、その条件において「てる」が一つの反応文当たり0.01回使用されたことを表す；あるいは、その条件において「てる」が使用された反応文の数が全反応文のうちの1%であることを表す。

折れ線グラフの横軸は年代（生年絶対年代または3回の調査の時点）を示す。各年齢層の中央の年にプロットした。10代の調査対象は一般の世論調査同様ハイティーンのみだが、20代以上と同じ10年間隔で、これまではプロットしていた。その後各年齢層の中央の値、平均年齢などによるグラフを作成して比較したが、視覚的に大きな違いの印象はなく、グラフの読み取りを間違える可能性は少ない。また各調査の30代のマークを大きくした。後述のように成人後習得がある場合に、10代も高年齢層も全体からずれた値をとることがあり、30代が全体を代表しうると考えたからである。また30代の位置を手がかりにすると、第1

次調査の P と C（後述）と第 2 次調査の線を判別しやすい。

第 1 回調査の値はすべて調査者による違いである P と C を区別した。P は proper または professional、C は control または college の略語であり、第 1 次調査報告書の「本グループ」と「比較グループ」の略称である。この違いを、仮に調査時期が少しずれるかのように表示して区別した。ただし、P と C を区別することで図が煩雑になる場合や、P と C の間に明らかな違いが認められない場合は、C を除いて P の値のみを表示した。

### ラベル付き散布図の見方

図 2-2、2-3、5-2～5-4、6-1～6-4、8-1～8-6、9-1～9-3 はラベル付き散布図である。これらの図は、任意の二つの属性を比較し、「てる」平均使用数がどのように異なるか（あるいは違いが無いか）を表す。例えば、図 2-2 は第 1 次調査と第 2 次調査の間の「てる」使用数の差異、つまり 1 次から 2 次にかけての使用数の変化を表す。同様に、性別（図 5-2～5-4）や学歴（図 8-1 等）などの属性変数について、属性間で「てる」使用数を比較する。さらに、こうした任意の 2 属性間の差異が、場面によってどう異なるか（各図における任意の属性変数と場面変数の相互作用）を観察することもできる。属性ごとの集計結果および属性間の差異を、凡例と照合せずにラベルの付いた形で考察でき、各属性での場面配列の原理を探るには便利である。

各図の縦軸と横軸は、同一の属性変数内の二つの異なる水準（調査次の 1 次と 2 次、性別の男性と女性など）のそれぞれにおける「てる」平均使用数を表す。各プロットは 11 場面（2 次と 3 次の魚釣りを除く）のそれぞれを表す。各図の左下から右上にかけての対角線は、原点を通り傾きが 1 の直線である。この線上に布置された場面は、両軸の属性において「てる」平均使用数が等しいことを表す；この線より上側は縦軸の属性における使用数がより多く、下側は横軸属性での使用数がより多いことを表す。場面間で比較すると、図の右上に位置する場面は使用数がより多く、左下はより少ない。

### 「てる」使用数変化の全体像

縮約形「てる」の状況について、グラフ化したことにより、以下の様相が読み取れる。

まず図 1-1 では「てる」が全体として数十年にわたって増加しつつあることが分かる。図 1-2 では場面によって増加ぶりが違うことが分かる。増加ぶりが著しいのは傘忘れ、魚釣り、新聞代の 3 場面である。また、おつりの場面も 3 回の調査を通して増加し、使用数も高い。一方、上昇に比べると幅は小さいものの減少する場面もあり、減少が最も目立つのは傘貸しである。

図 2-1 では 3 回の調査結果を「生年によるグラフ」で示した。ここでは、年代が進むごとに「てる」が増加するという上述の傾向に加えて、各調査次における年代による差も見られる。概ね、若い世代ほど「てる」使用数が高いと言えそうである。ただし最も若い世代である 10 代は全調査においてやや低くなる；これは第 3 次において最も顕著である。ま

た、「てる」が第3次において急激に増加したことや、第3次における年代差が最も大きいこと、特に、第3次の70代の使用数は第2次の生年が近い話者とほぼ同じであることも分かる。鶴岡の音韻共通語化と似たパターンで、「ていただく」や「丁寧さ」で観察された「成人後採用」のパターンではない。

図2-2、2-3では3回の調査結果を散布図で示した。図2-2で第1次と第2次の変化が少ないことが分かる。図2-3で第1次と第3次の変化が大きいことが読み取れる。傘忘れ、新聞代、魚釣りの3場面で増加し、傘貸しでやや減少したことも読み取れる。これらの場面で「ている」「てる」という表現が多く出たことが主因であろう。

### 場面別の生年グラフ

図3~4では、場面ごとに生年によるグラフを示した。11場面を第3次調査の平均使用数の順に並べて、3回の調査の結果を示した（第1回調査の調査者による違いのPとCも分けた）。

図1-2などですでに見た通り、場面により「てる」の使用数とその時間変化のパターンや程度は異なる。ここでも、前述のものと同じ傾向が読み取れる：すなわち、「てる」使用数が多く、目立った増加を示すのは図3-1~3-4の傘忘れ、魚釣り、新聞代、おつりである。図4-1傘貸しでやや減少することも読み取れる。

### 性別ごとグラフ

図5~6は、性別ごと、性別間比較のグラフである。全体として、性別の違いによる「てる」使用数の差は大きくないことが分かる。

図5-1では、調査次（横軸）による「てる」使用数（縦軸）の変化を、性別ごとに示した。1次Pと3次では男性の方がやや高いが、1次Cと2次ではほぼ同じである。また、調査次による変化の様相には男女間で差が無いことが読み取れる。

図5-2~5-4では、調査次ごとに三つのグラフに分けて、縦軸を女性、横軸を男性として、「てる」使用数の男女差を示した。ほとんどの場面が対角線付近に布置されていることから、やはり、男女間の差は大きくないことが分かる。1次（図5-2）のおつりと傘貸し、3次（図5-4）の傘忘れが目立つくらいである。

図6-1~6-4は、男女を別グラフにし、各軸を調査次として、調査次による変化を性別ごとに表したグラフである（図5-2~5-4と同じ数値で、表示方法を変えたもの）。左右に並んだ2枚の図をそれぞれ比較することで男女の違いが分かる。3次調査における男性の傘忘れでの増加、傘貸しでの減少を除くと、やはり、男女間で大きな違いは無い。

### 学歴ごとグラフ

図7~9は、学歴の違いによる「てる」使用数の差異を表すグラフである。全体としては、学歴が高いほど「てる」の使用が多いことが読み取れる。

図 7-1 では、調査次（横軸）による「てる」使用数（縦軸）の変化を、学歴ごとに示した。学歴が高いほど図の上側に位置し、「てる」使用数が多くなることが分かる。また、すべての学歴において右上がりの曲線になっており、調査次が進むに従い使用数が多くなることも分かる。図 7-2～7-4 は、3 段階の学歴を別グラフに分けて、生年による「てる」使用数の変化を表示したものである。各グラフからは、同一学歴内における生年による「てる」使用数の変化が分かり、グラフ間比較からは、その変化の学歴による差異が分かる。若い世代ほど、そしてここでも学歴が高いほど、「てる」の使用が多いことが読み取れる。共通語化と似たパターンである。

図 8～9 は、調査次ごとの学歴間比較を表したグラフである。個々のグラフを見る前に全体から読み取れる傾向を述べておくと、1 次と 2 次では学歴による差は小さいが、3 次において学歴による差が広がることが分かる。

図 8-1、8-2、9-1 の三つのグラフ（各ページの上段）は、いずれも第 1 次調査について、低学歴×中学歴（図 8-1）、低学歴×高学歴（図 8-2）、中学歴×高学歴（図 9-1）をそれぞれ比較したものである。高学歴のおつりを除くとほぼすべての場面が、対角線上の左下に集中しており、学歴による「てる」使用数の差は小さいといえる。

図 8-3、8-4、9-2 の三つのグラフ（各ページの中段）は、第 2 次調査での同様の学歴間比較を表す。ここでも、1 次の 3 グラフと類似の分布が観察され、学歴間の差は小さいことが分かる。

一方、第 3 次調査の結果を示した図 8-5、8-6、9-3（各ページの下段）ではこれまでと異なる分布が見られる。まず図 8-5 を見ると、対角線の上側に離れて分布する場面が現れ、低学歴（横軸）に比べて中学歴（縦軸）での「てる」使用数が多くなったことが分かる。図 8-6（低学歴×高学歴）と図 9-3（中学歴×高学歴）でも同様の変化が見られ、学歴が高いほど「てる」使用数が多くなる。このように、学歴の違いによる「てる」使用数の差異は、1 次と 2 次では小さく、第 3 次調査で特に大きくなったことが分かる。

なお、こうした学歴による差異と、3 次におけるその差異の拡大に寄与する場面は、傘忘れ、魚釣り、新聞代、おつり等である；これらは、図 3～4 等で見たとおり、学歴によらず全体として「てる」使用が多く、かつ増加している場面である。

### 「丁寧さ」ごとのグラフ

図 10-1 と図 10-2 は「丁寧さ」と「てる」使用数の関係を表す。「丁寧さ」は、丁寧なものから順に「1、2、3」の 3 段階が区別され、順にほぼ「ございます体、ですます体、だ体」に相当する。「特別（御）丁寧体、丁寧体、普通体」「最高敬体、敬体、常体」などとも呼ばれる。

図 10-1 は 3 段階の丁寧さのそれぞれについて「てる」平均使用数を示したものである。この図では、一見、丁寧さと「てる」使用数がきれいな相関を示さない。つまり、「てる」使用数は、丁寧さ 1（つまり最も丁寧）である場合に最も少ないものの、中間の段階である

丁寧さ 2 の場合に最も多い。しかし、語形ごとに（例えば「てる」と「てます」を区別して）より詳しく見ると、丁寧さが高いほど「てる」使用数が少ないという傾向がより明瞭に観察できる。語形ごとの分析は現在進行中で、後日公表する。

図 10-2 は、調査次（横軸）による「てる」使用数（縦軸）の変化を、丁寧さごとに別の曲線で表したものである。第 2 次調査において丁寧さ 3（つまり最もぞんざい）である場合の「てる」使用数が増え、第 3 次調査では丁寧さ 2 の場合が増えたことが分かる。この変化パターンも、現在進行中の語形ごとの分析を加えることで、その詳細を理解することができる。

一見敬語や丁寧さと縁の薄そうな縮約形も、丁寧さと連動する傾向を見せた。岡崎データの有用性を示すと考えられる。

### 今後の分析手順

その後他の着眼点からの分析が、高山林太郎・柳村裕・丁美貞などの手で進行中である。またカタカナで記録された反応文を漢字かなまじりに直す作業も鎌水兼貴・藏屋伸子などの手で行われており、これを形態素解析ソフト「メカブ MeCab」で分析しようと試みている。

岡崎敬語調査については、全項目を一連の談話データと見なして、総合的な観点からの分析を進める予定である。回答文に形態素解析をほどこし、各種の多変量解析を適用して、これまでの報告書での個別的な分析を超越できる成果報告を目指す。成果は逐次、口頭発表、学術論文、啓蒙論文で公表する。また海外の研究者・日本語教師向けの講演と特別授業でも言及する。また資料集などを逐次インターネットで公開し、他の研究者にも分析を呼びかける。

岡崎調査の全体については、国立国語研究所（1983、2010）などを参照されたい。インターネットでも見られる。<http://www2.ninjal.ac.jp/keinen/okazaki/>

### 参考文献

新井文人（2012）「「い抜き」に係わる言語的・社会的要因の貢献度」 JLVC2012 ポスター発表（国語研 2012.3.20）

井上史雄（2012.9）「岡崎敬語の現代史」 日本語学 31-11 pp. 2-13

井上史雄（2012.12）「日本語敬語の変化とアジアの敬語」 三宅和子・野田尚史・生越直樹（編）『「配慮」はどのように示されるか』 ひつじ書房。

Inoue, Fumio (2013.4.2) "A Contemporary History of Okazaki Honorifics – Democratization and te- itadaku –"

<http://www.ninjal.ac.jp/socioling/nwavap02/Inoue-NWAVAP2-2013.pdf> pp.1-9 ("Working Papers from NWAV Asia-Pacific 2")

井上史雄（2013.11）『岡崎敬語調査資料集 1』 Material for Okazaki Survey of Honorifics, 岡崎「ていただく」の増加 Increase of "te itadaku" in Okazaki, 国立国語研究

所 National Institute for Japanese Language and Linguistics

井上史雄・松田謙次郎・柳村裕 (2014.1)『岡崎敬語調査資料集 2』Material for Okazaki Survey of Honorifics, 岡崎敬語「丁寧さ」の変化 Change of “politeness level” in Okazaki, 国立国語研究所 National Institute for Japanese Language and Linguistics

井上史雄・松田謙次郎・金順任 (2012. 11)「岡崎 100 年間の「ていただく」増加傾向— 受惠表現にみる敬語の民主化—」国立国語研究所論集第 4 号 pp. 1-25

尾崎喜光 (2013)「“道理に合わない” 授受表現の使用と動態—愛知県岡崎市での経年調査および最近の言語調査から—」相沢正夫編『現代日本語の動態研究』おうふう, pp104-126

国立国語研究所 (1958)『敬語と敬語意識』秀英出版.

国立国語研究所 (1983)『敬語と敬語意識 — 岡崎における 20 年前との比較—』三省堂.

国立国語研究所 (2010)『敬語と敬語意識—愛知県岡崎市における第三次調査—』科学研究費補助金研究成果報告書 第 1~4 分冊.

辻加代子 (予定)「岡崎市方言敬語伝統形式および新形式ミエルの消長—継続サンプルの分析より—」『国立国語研究所論集』第 7 号

原田幸一 (2013)「テイタダク使用に関わる要因とその予測—岡崎敬語調査 12 場面の分析—」日本方言研究会第 96 回研究発表会原稿集

Matsuda, Kenjiro (2012) What happened to the honorifics in a local Japanese dialect in 55 years: A report from the Okazaki Survey on Honorifics, *University of Pennsylvania Working Papers in Linguistics* 18-2

松田 謙次郎 (予定)「形態素解析の大規模言語調査データへの応用—岡崎敬語調査パネルデータにおける名詞・代名詞・動詞の相対頻度に対する話者性別効果の検証—」『国立国語研究所論集』第 7 号

松田謙次郎・阿部貴人・辻加代子・西尾純二 (2012)「岡崎敬語調査報告—継続サンプルの分析—」日本語学会 2012 年度春季大会予稿集 pp. 37-54.



岡崎敬語調査 てる平均使用数  
 Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of 'teru'  
 11場面: 101道教え~111傘貸し

11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella

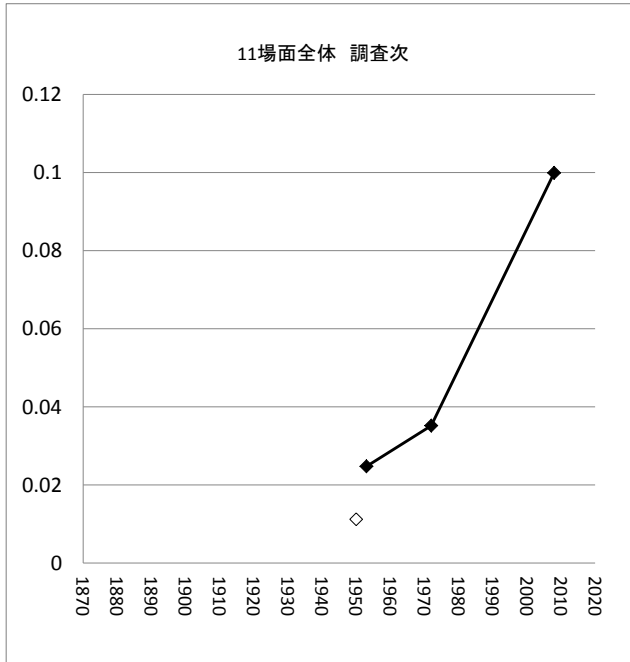


図1-1 11場面全体 調査次 (◆: プロパー、◇: コントロール)  
 Figure 1-1 In all the 11 contexts, by year of survey (◆: proper or professional ◇: control or college)

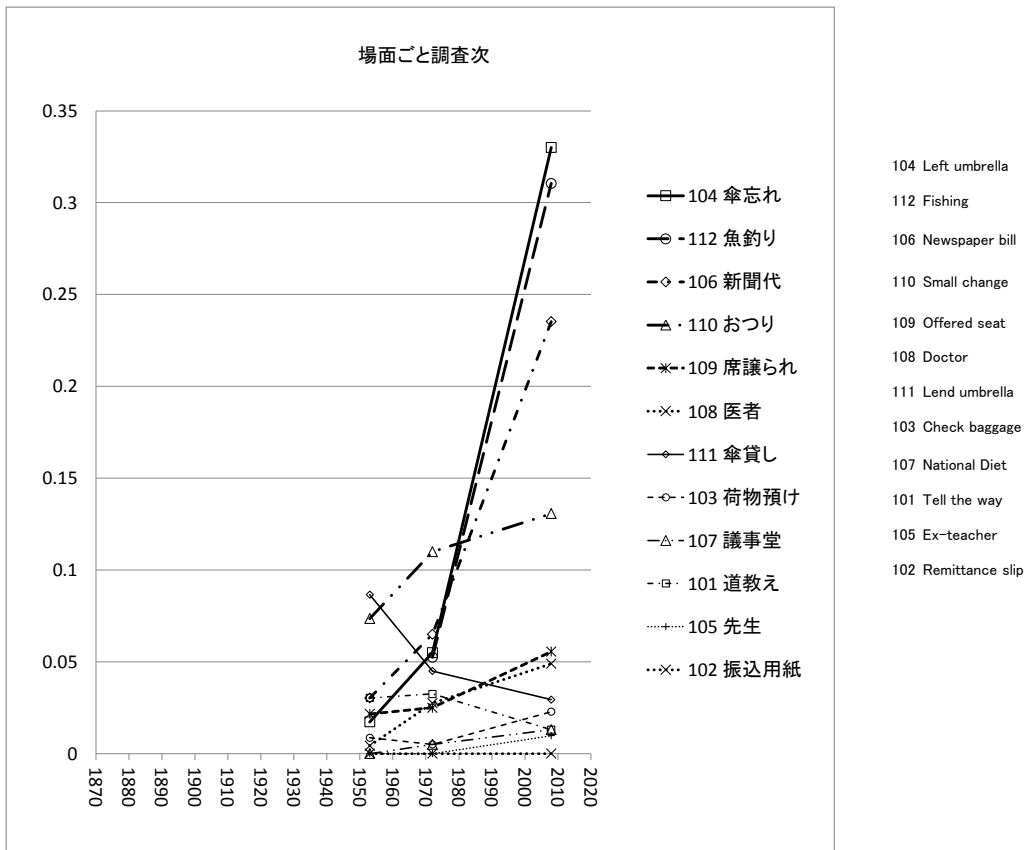


図1-2 場面ごと調査次 (プロパーのみ)  
 Figure 1-2 In each context, by year of survey (proper or professional only)

岡崎敬語調査 てる平均使用数 11場面全体調査次ごと年代

Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of 'teru'

11場面: 101道教え~111傘貸し

年代: 1次10代~50代、2次&3次10代~70代

All the 11 contexts by generations of three surveys

11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

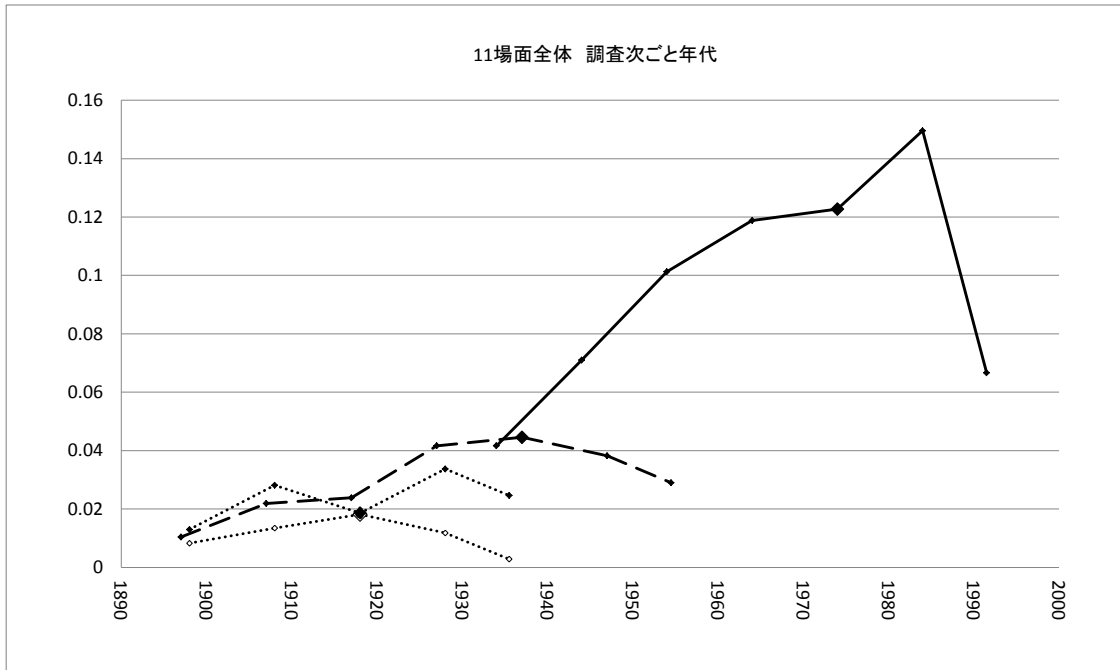


図2-1 11場面全体 調査次ごと年代 (◆: プロパー、◇: コントロール)

Figure 2-1 All the 11 contexts, generations of three surveys (◆: proper or professional ◇: control or college)

岡崎敬語調査 てる平均使用数の散布図 場面ごと調査次(プロパーのみ)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of 'teru'

In each context, by year of survey (proper or professional only)

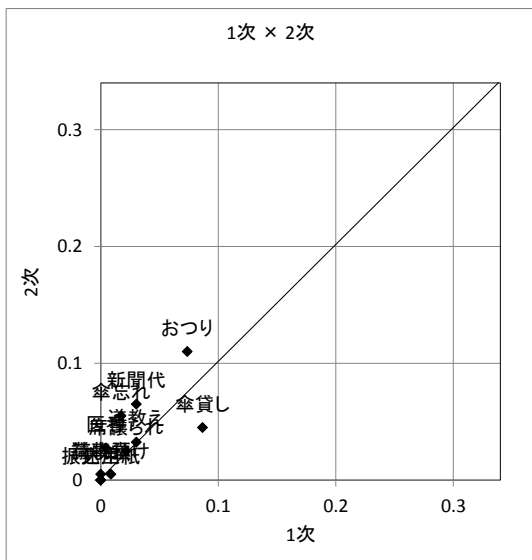


図2-2 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)

Figure 2-2 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

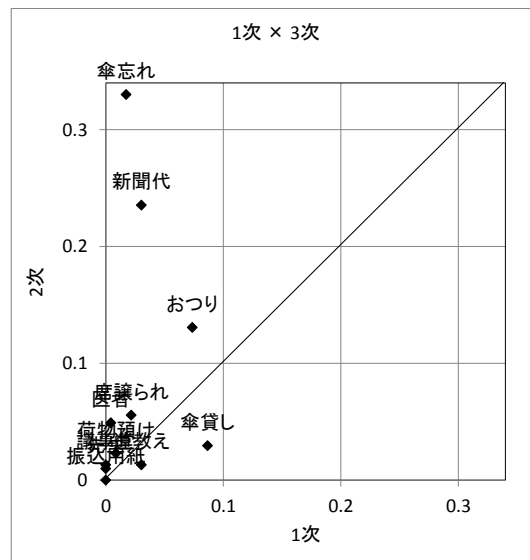


図2-3 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)

Figure 2-3 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

岡崎敬語調査 てる平均使用数 場面別調査次ごと年代

Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of 'teru' In each context, by generations, year of survey

場面：縦に第3次平均使用数順 Context: Figure No. is given in order of the average usage rate in the third survey.

年代：1次10代～50代、2次&3次10代～70代

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

◆：プロパー、◇：コントロール  
 (◆: proper or professional ◇: control or college)

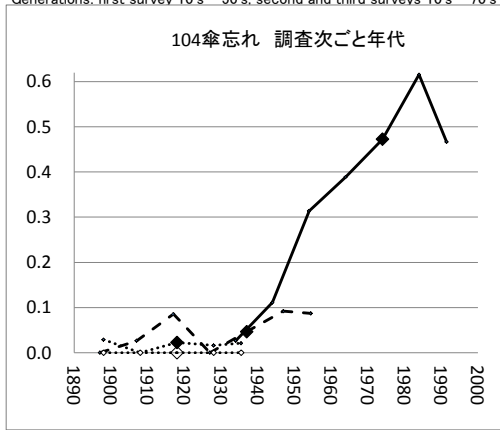


図3-1 104傘忘れ 調査次ごと年代  
 Figure 3-1 In 104 Left umbrella, by year of survey, generations

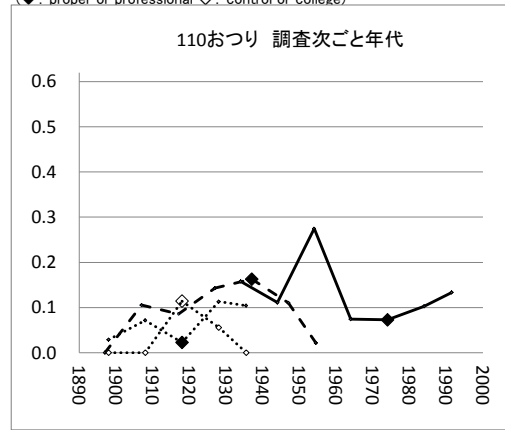


図3-4 110おつり 調査次ごと年代  
 Figure 3-4 In 110 Small change, by year of survey, generations

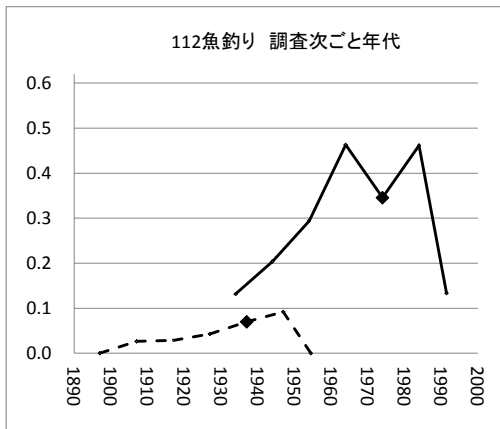


図3-2 112魚釣り 調査次ごと年代  
 Figure 3-2 In 112 Fishing, by year of survey, generations

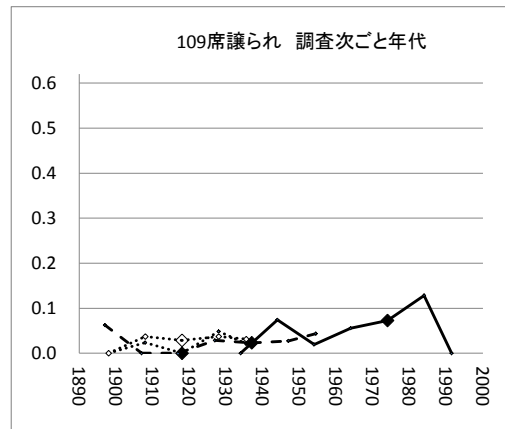


図3-5 109席譲られ 調査次ごと年代  
 Figure 3-5 In 109 Offered seat, by year of survey, generations

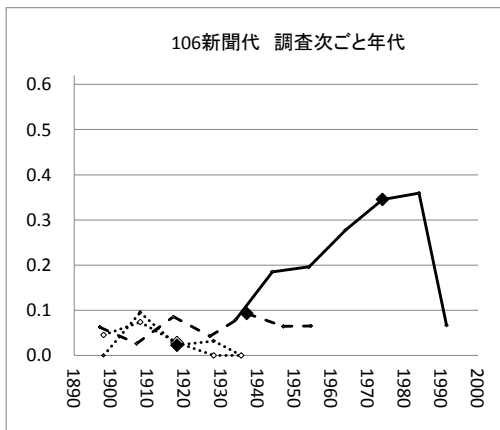


図3-3 106新聞代 調査次ごと年代  
 Figure 3-3 In 106 Newspaper bill, by year of survey, generations

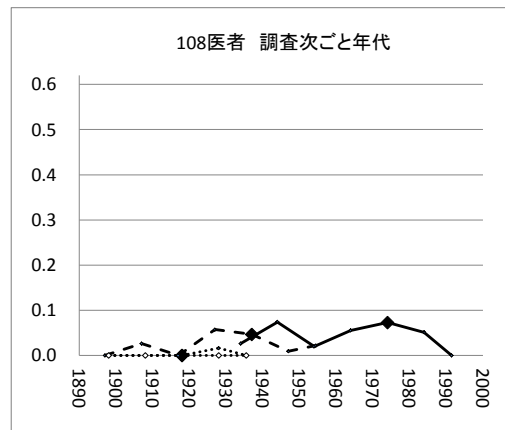


図3-6 108医者 調査次ごと年代  
 Figure 3-6 In 108 Doctor, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 てる平均使用数 場面別調査次ごと年代（続き）

Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of 'teru' In each context, by generations, year of survey (continued)

場面：縦に第3次平均使用数順 Context: Figure No. is given in order of the average usage rate in the third survey.

年代：1次10代～50代、2次&3次10代～70代

◆：プロパー、◇：コントロール

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's (◆: proper or professional ◇: control or college)

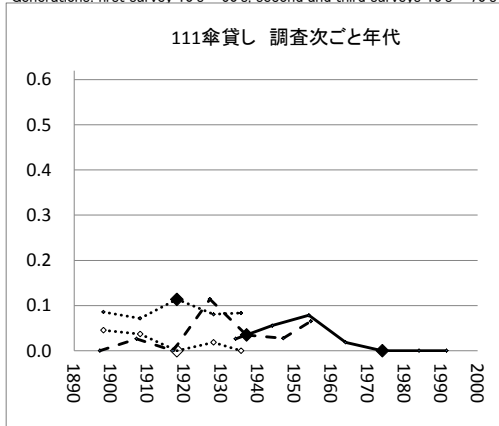


図4-1 111傘貸し 調査次ごと年代  
Figure 4-1 In 111 Lend umbrella, by year of survey, generations

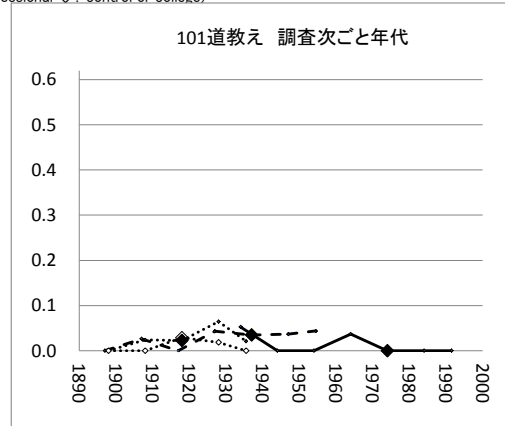


図4-4 101道教え 調査次ごと年代  
Figure 4-4 In 101 Tell the way, by year of survey, generations

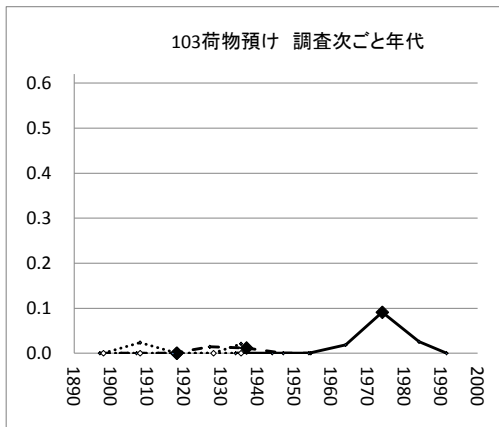


図4-2 103荷物預け 調査次ごと年代  
Figure 4-2 In 103 Check baggage, by year of survey, generations

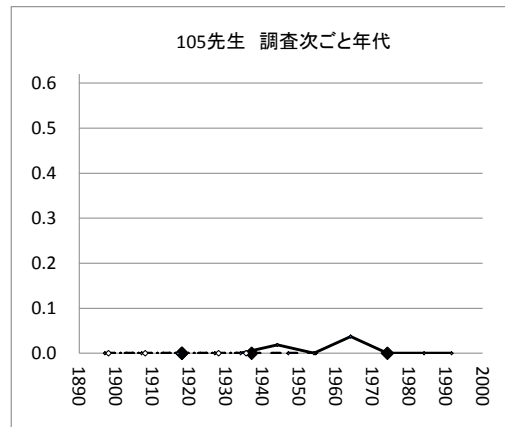


図4-5 105先生 調査次ごと年代  
Figure 4-5 In 105 Ex-teacher, by year of survey, generations

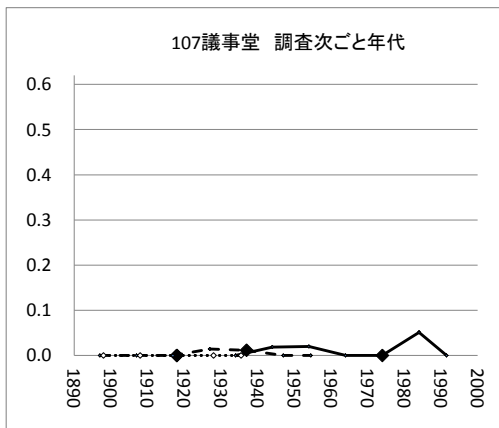


図4-3 107議事堂 調査次ごと年代  
Figure 4-3 In 107 National Diet, by year of survey, generations

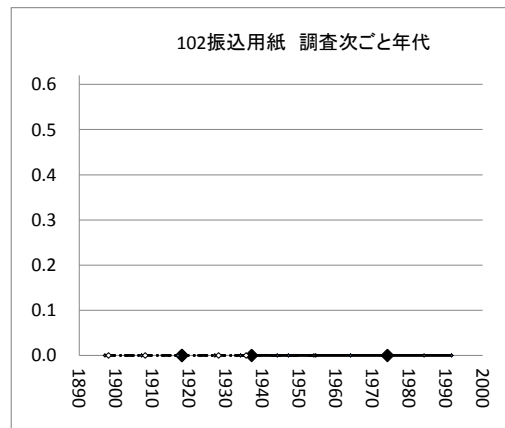


図4-6 102振込用紙 調査次ごと年代  
Figure 4-6 In 102 Remittance slip, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 てる平均使用数とその散布図  
Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of 'teru'

11場面全体 性別ごと調査次  
All the 11 contexts, by gender, year of survey  
11場面: 101道教え~111傘貸し  
11 contexts: 101 Tell the way ~ 111 Lend umbrella  
◆: プロパー、◇: コントロール  
◆: proper or professional ◇: control or college

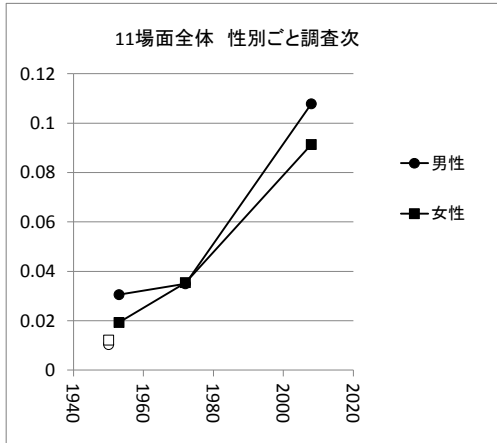


図5-1 11場面全体 性別ごと調査次  
Figure 5-1 In all the contexts, by gender, year of survey

調査次別 場面ごと性別(プロパーのみ)  
By year of survey, in each context, by gender (proper or professional only)

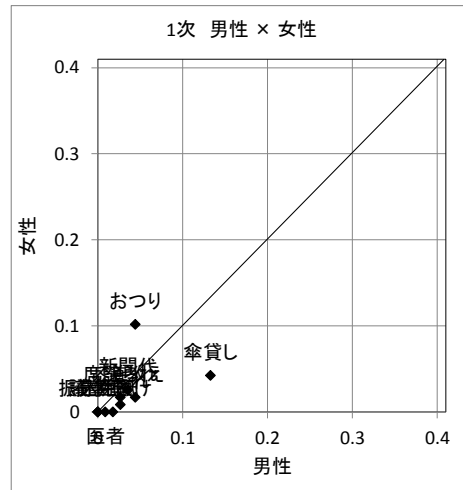


図5-2 1次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)  
Figure 5-2 1st survey, in each context, female against male (proper or professional only)

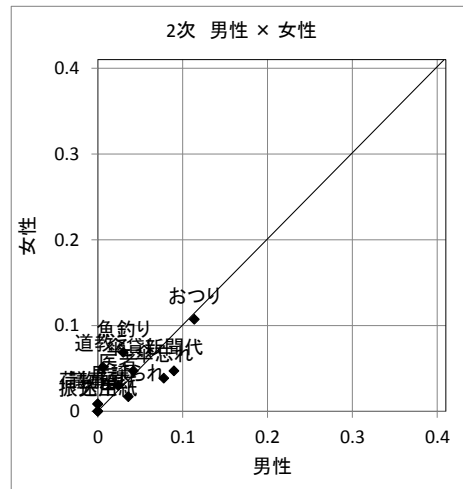


図5-3 2次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)  
Figure 5-3 2nd survey, in each context, female against male (proper or professional only)

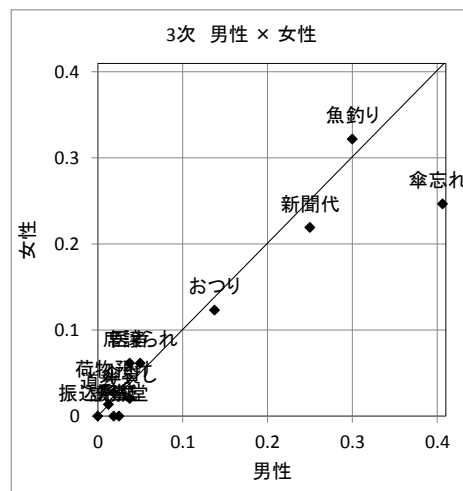


図5-4 3次 場面ごと男性×女性 (プロパーのみ)  
Figure 5-4 3rd survey, in each context, female against male (proper or professional only)

岡崎敬語調査 てる平均使用数の散布図 男女別 場面ごと調査次(プロパーのみ)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of 'ter. By gender, in each context, by year of survey (proper or professional only)

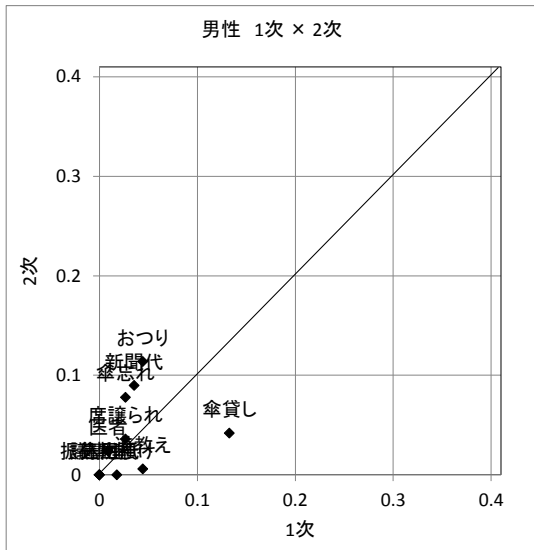


図6-1 男性 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)  
Figure 6-1 Male, 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

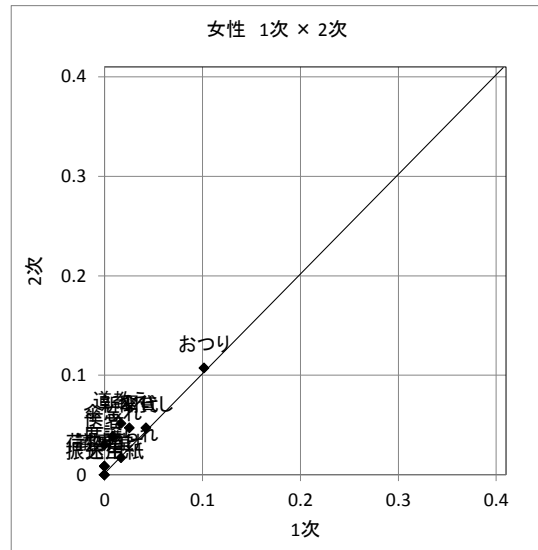


図6-2 女性 場面ごと1次×2次 (プロパーのみ)  
Figure 6-2 Female, 2nd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

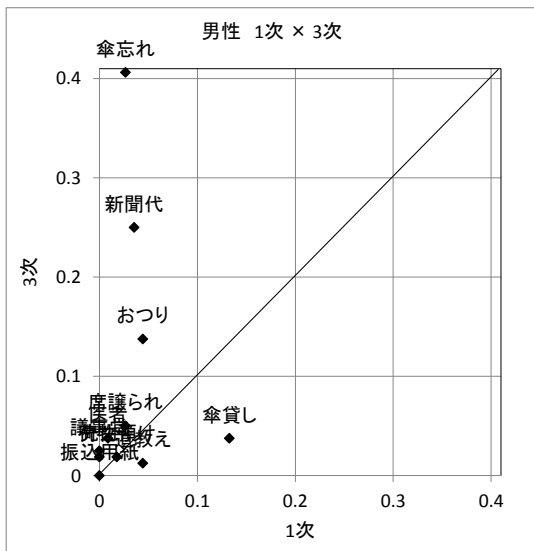


図6-3 男性 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)  
Figure 6-3 Male, 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

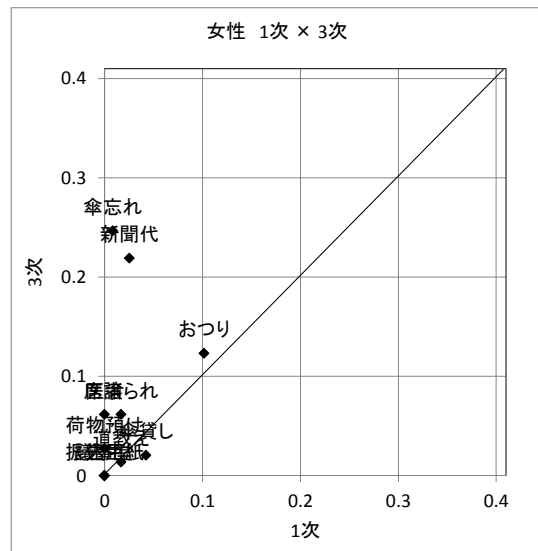


図6-4 女性 場面ごと1次×3次 (プロパーのみ)  
Figure 6-4 Female, 3rd against 1st survey, in each context (proper or professional only)

岡崎敬語調査 てる平均使用数

Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of 'teru'

◆: プロパー、◇: コントロール

◆: proper or professional ◇: control or college

11場面全体 学歴ごと調査次

All the 11 contexts, by academic background, year of survey

11場面: 101 道教え～111 傘貸し

11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella

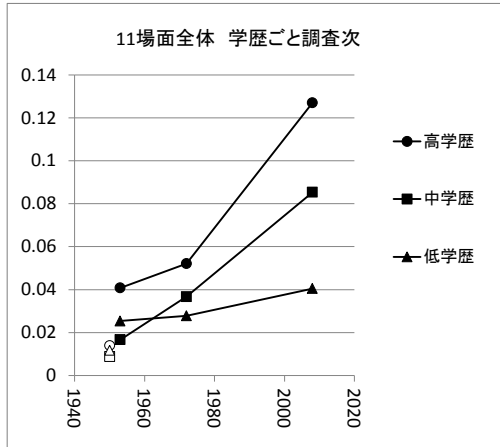


図7-1 11場面全体 学歴ごと調査次

Figure 7-1 In all the contexts, by academic background, year of survey

学歴別調査次ごと年代

By academic background, generations, year of survey

年代: 1次10代～50代、2次&3次10代～70代

Generations: first survey 10's - 50's; second and third surveys 10's - 70's

無回答 No response

高学歴: 1次P10代、1次C10代、2次70代

High education: 1st. proper, 10's; 1st. control, 10's; 2nd, 70's

中学歴: 2次70代 Middle education: 2nd, 70's

低学歴: 3次20代、3次40代 Low education: 3rd, 20's and 3rd, 40's

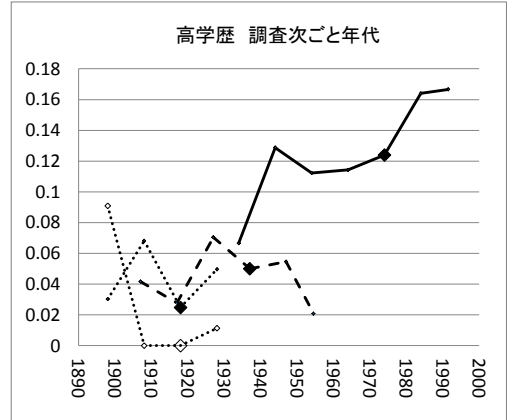


図7-2 高学歴 調査次ごと年代

Figure 7-2 High education, by year of survey, generations

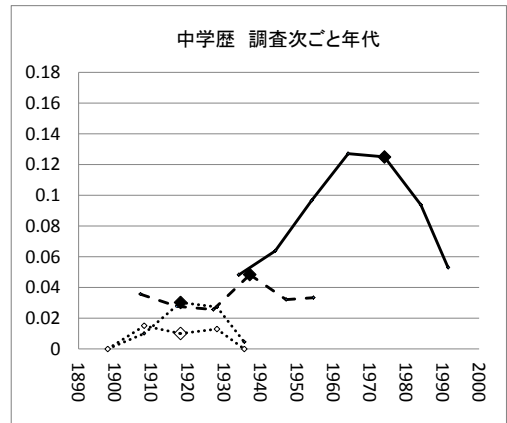


図7-3 中学歴 調査次ごと年代

Figure 7-3 Middle education, by year of survey, generations

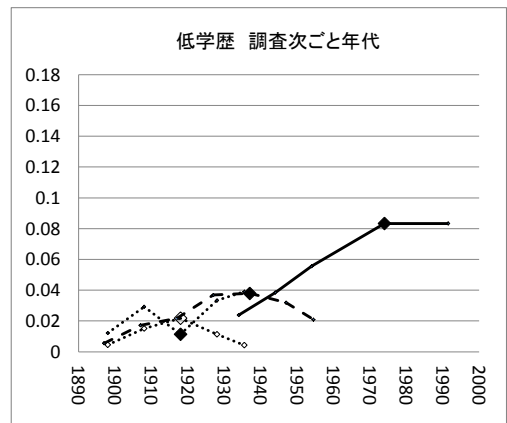


図7-4 低学歴 調査次ごと年代

Figure 7-4 Low education, by year of survey, generations

岡崎敬語調査 てる平均使用数の散布図 調査次別 場面ごと学歴(プロパーのみ)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of 'ter. By year of survey, in each context, by academic background (proper or professional only)

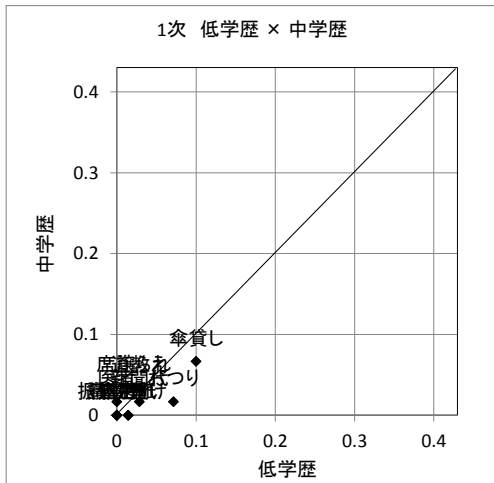


図8-1 1次 場面ごと低学歴×中学歴 (プロパーのみ)  
Figure 8-1 1st survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

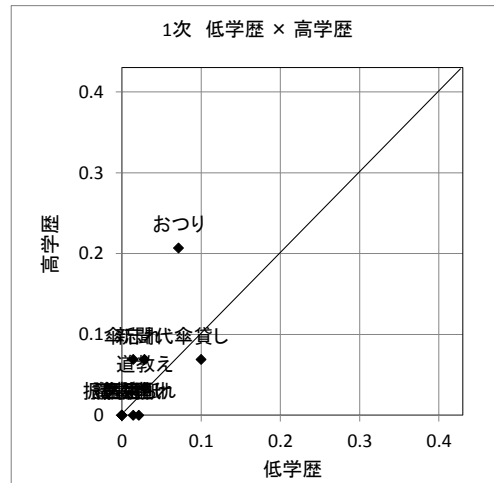


図8-2 1次 場面ごと低学歴×高学歴 (プロパーのみ)  
Figure 8-2 1st survey, in each context, high against low education (proper or professional only)

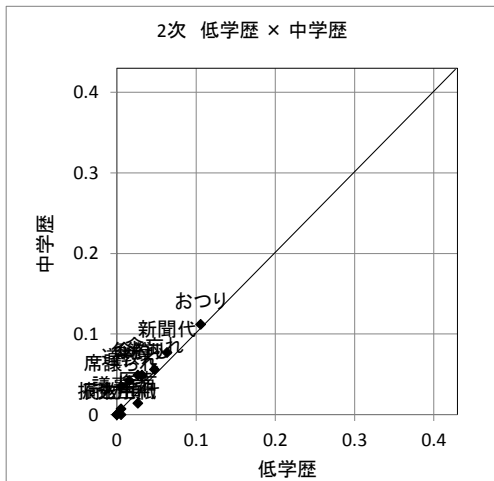


図8-3 2次 場面ごと低学歴×中学歴 (プロパーのみ)  
Figure 8-3 2nd survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

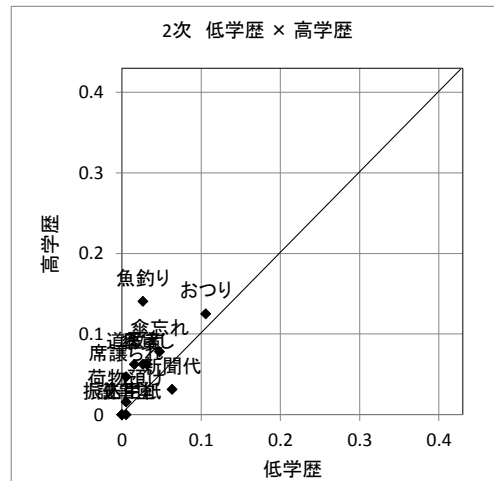


図8-4 2次 場面ごと低学歴×高学歴 (プロパーのみ)  
Figure 8-4 2nd survey, in each context, high against low education (proper or professional only)

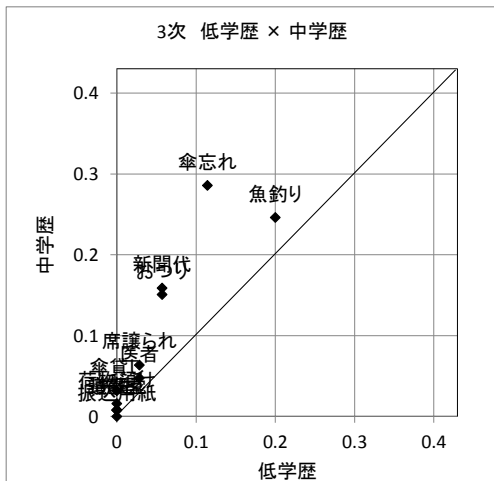


図8-5 3次 場面ごと低学歴×中学歴 (プロパーのみ)  
Figure 8-5 3rd survey, in each context, middle against low education (proper or professional only)

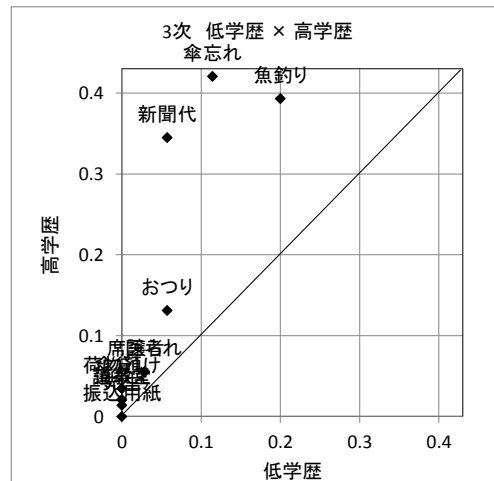


図8-6 3次 場面ごと低学歴×高学歴 (プロパーのみ)  
Figure 8-6 3rd survey, in each context, high against low education (proper or professional only)



岡崎敬語調査 てる平均使用数の散布図 調査次別 場面ごと学歴(プロパーのみ) (続き)

Okazaki Survey on Honorifics Scattergram of average usage rate of 'teru. By year of survey, in each context, by academic background (proper or professional only) (continued)

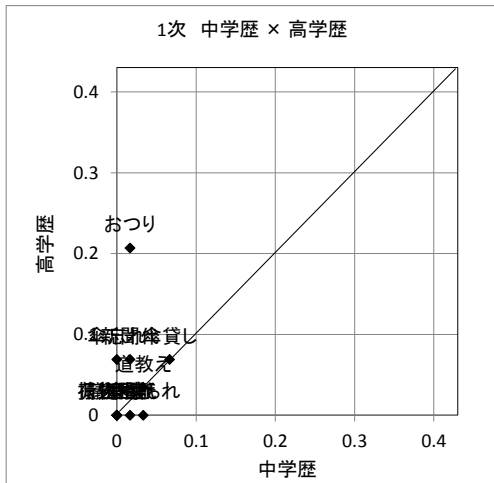


図9-1 1次 場面ごと中学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 9-1 1st survey, in each context, high against middle education (proper or professional only)

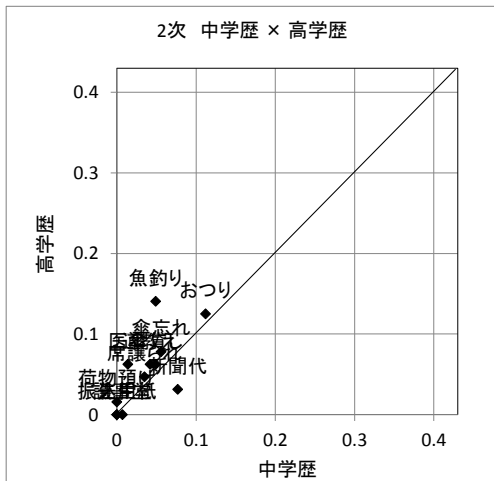


図9-2 2次 場面ごと中学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 9-2 2nd survey, in each context, high against middle education (proper or professional only)

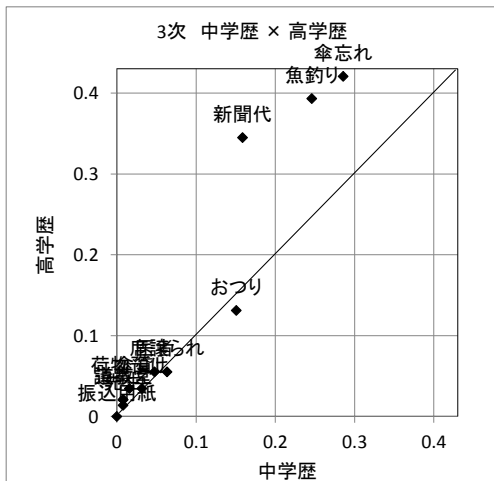


図9-3 3次 場面ごと中学歴×高学歴 (プロパーのみ)

Figure 9-3 3rd survey, in each context, high against middle education (proper or professional only)

岡崎敬語調査 てる平均使用数と丁寧さ  
 Okazaki Survey on Honorifics Average usage rate of 'teru' and politeness  
 11場面: 101道教え～111傘貸し  
 11 contexts: 101 Tell the way --- 111 Lend umbrella

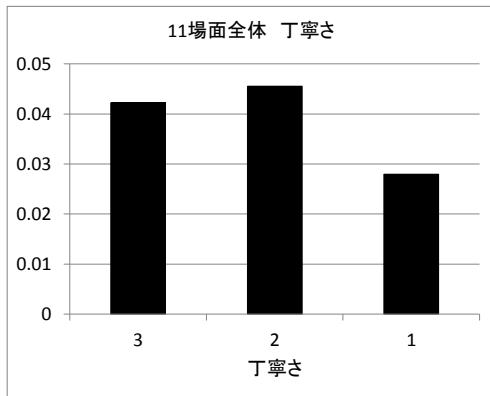


図10-1 11場面全体 丁寧さ  
 Figure 10-1 In all the 11 contexts, by politeness

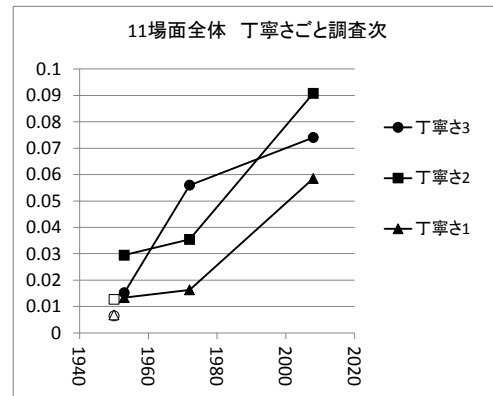


図10-2 11場面全体 丁寧さごと調査次  
 (◆: プロ/パー、◇: コントロール)  
 Figure 10-2 In all the 11 contexts, by politeness, year of survey  
 (◆: proper or professional ◇: control or college)

岡崎敬語調査資料集 4

Material for Okazaki Survey of Honorifics

## 岡崎「ている」の縮約形「てる」の増加

Increase of “teru,” the contracted form of “teiru,” in Okazaki

日本語の大規模経年調査に関する総合的研究

Comprehensive Research

Based on Large-Scale, Long-Term Studies of Japanese

著： 井上史雄 ・ 柳村裕

INOUE Fumio, YANAGIMURA Yuu

発行： 平成 26 年 3 月 4 日 4 March 2014

国立国語研究所

National Institute for Japanese Language and Linguistics

〒190-8561

東京都立川市緑町10-2

Tel. 042-540-4300 (代)

10-2 Midori-cho, Tachikawa City, Tokyo, 190-8561

Tel. +81-42-540-4300

<http://www.ninjal.ac.jp/english/>